

i ごあいさつ

どうも。バージョンアップしたので、改訂版のマニュアルです。

三連符とタイ記号に対応しました。そして、音符フォントを自作しました。

B♭、E♭管のインキーに対応しました。エクササイズモードを追加しました。

あと、多少のバグ落としをしました。

ii 目的

このソフトは、作者自身がbamboo saxの練習をしたいがために、ギターのタブ符的なものが欲しいなあって、運指の練習用に作ったものです。

ですので、正確にはこれは楽譜作成ソフトではなく、運指表作成ソフトです。

ということで、和音やダルセーニョなどは作れないのです。

そのかわり、運指表が作れるし、移調も簡単にできます。

そう割り切ったら、結構便利と思いますよ。

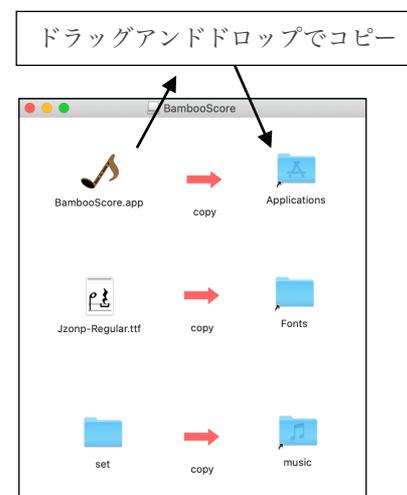
iii 動作条件

このアプリケーションは、以下の環境で作りました。

※ MacBookPro13” Catalina

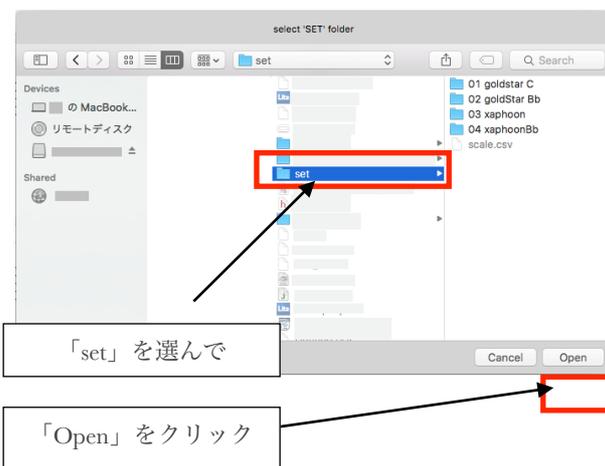
iv インストール

- ・ 「Jzomp-Regular.ttf」を「/ライブラリ/Fonts」にコピー
- ・ 「Bamboo Score」を「アプリケーション」にコピー
- ・ 「set」を「~/music」にコピー



次に、“Bamboo Score”を立ち上げます。
フォルダ選択パネルが表示されるので、先ほどコピーした“~/music/set”フォルダを指定して、アプリケーションを一度終了してください。

再度立ち上げたら、正常に起動します。（面倒くさくてすまんです）



目次

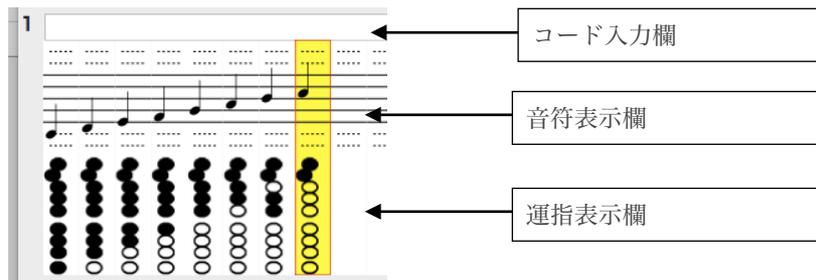
0	画面説明	3
1	音符の入力 「ドレミファソラシド」を作ってみる	5
1-1	マウスで入力する	6
1-2	キーボードで入力する	9
1-3	仮想鍵盤で入力する	11
2	楽譜の演奏	12
3	保存・印刷	12
4	もうちょっと入力の話	13
4-1	いろいろな音符の入力	13
4-2	反復記号	14
4-3	音符の置換	16
4-4	コードの入力	17
4-5	キーの変更	17
4-6	コピーアンドペースト	18
4-7	三連符 タイ記号	19
5	いろいろな演奏の仕方	21
5-1	テンポの設定	21
5-2	インキーの設定	21
5-3	基準周波数の設定	21
5-4	カウントの設定	22
5-5	エクササイズモード	22
6	おまけの情報	23

0 画面説明

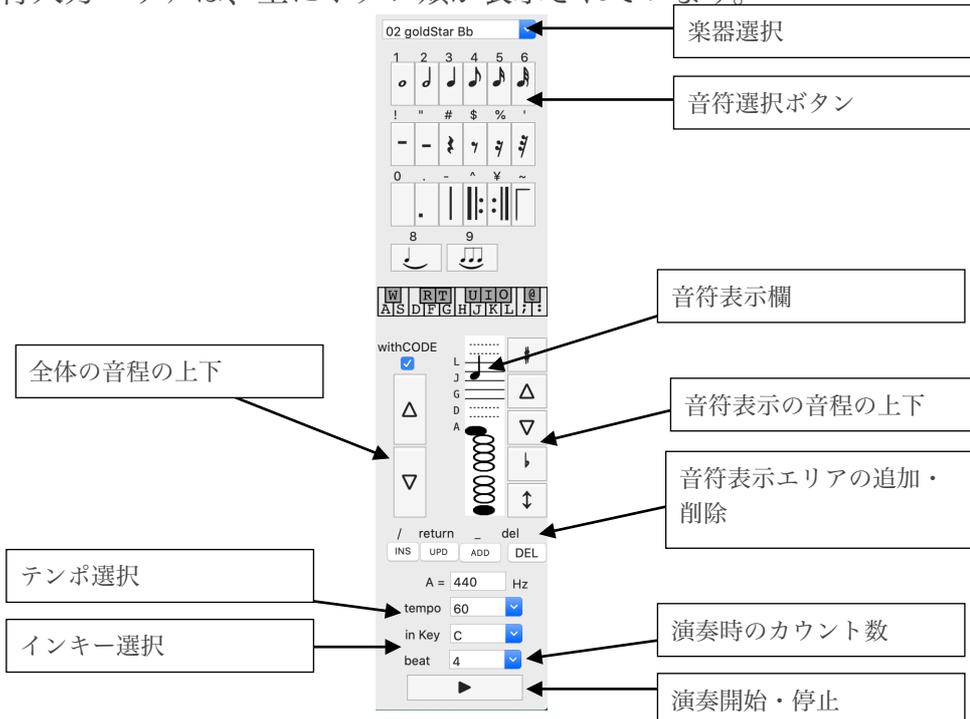
画面は、大きく「楽譜表示エリア」と「音符入力エリア」に分かれています。



楽譜表示エリアは、「コード入力欄」と「音符表示欄」、「運指表示欄」に分かれています。



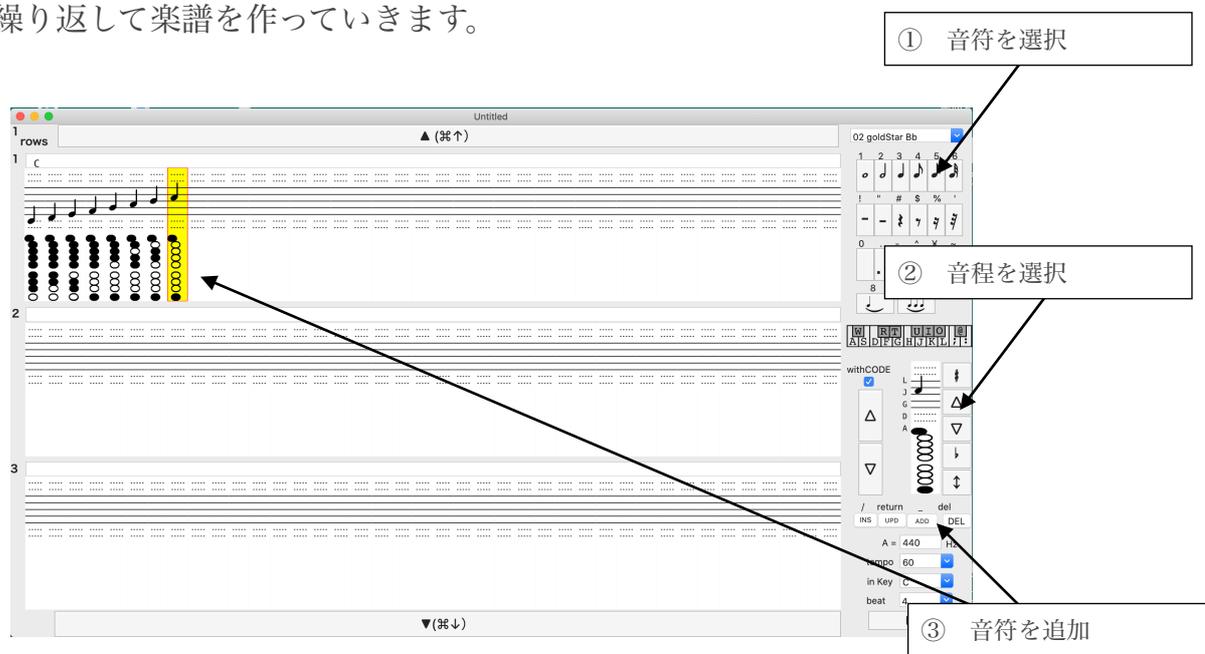
音符入力エリアは、主にボタン類が表示されています。



Bamboo Scoreでの作業は、

- ① 音符を選んで
- ② 音程を選んで
- ③ 楽譜表示エリアに音符を追加する

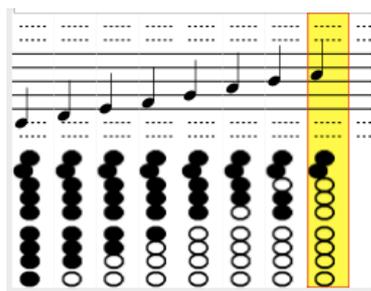
を繰り返して楽譜を作っていきます。



いろいろ説明するより、使ってみるほうが分かりやすいと思います。

さっそく入力してみましょう。

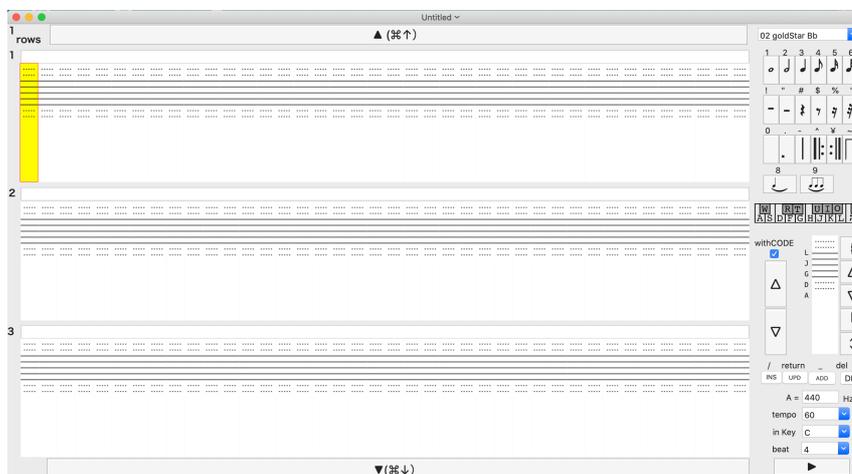
1 音符の入力 「ドレミファソラシド」を作ってみる



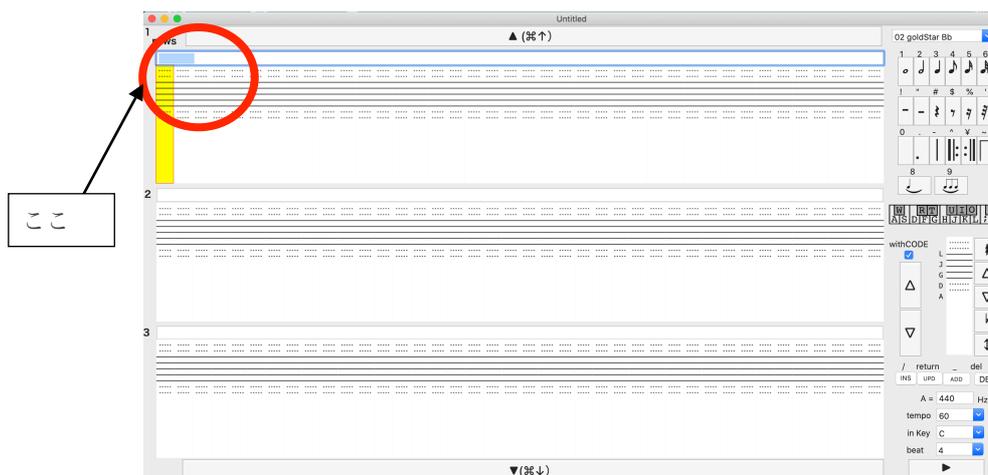
この楽譜を作ります。

まず「BambooScore」を起動します。

こんな画面が開きます。（画面が開いてない時はメニューの「File - New」で画面を出してください）



下図のようにフォーカスがコード入力欄にある時は、Escキーを2～3回押してください。

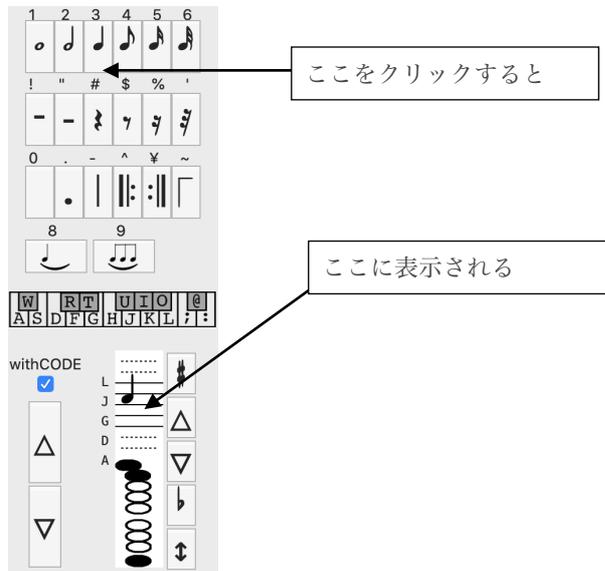


入力は、マウスを使う方法、キーボードを使う方法、そして仮想鍵盤を使う方法があります。

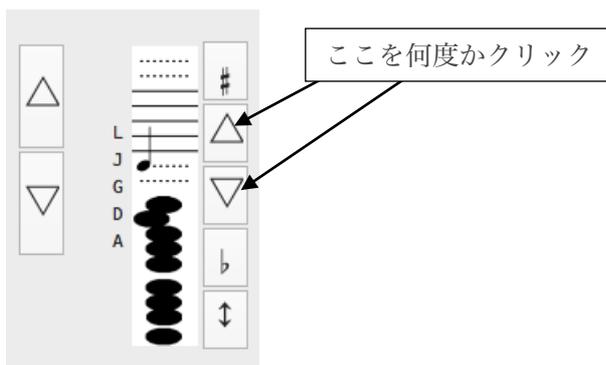
まずは、マウスを使う方法で説明します。

1-1 マウスで入力する

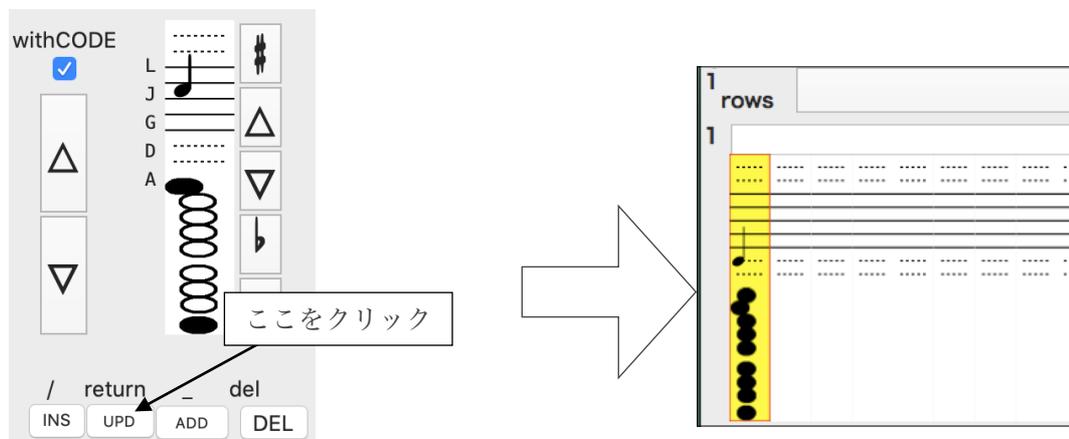
- (1) 四分音符のボタンをクリックすると、音符表示欄に音符が表示されます。



- (2) 音程ボタンを何度かクリックして「ド」の音にします。

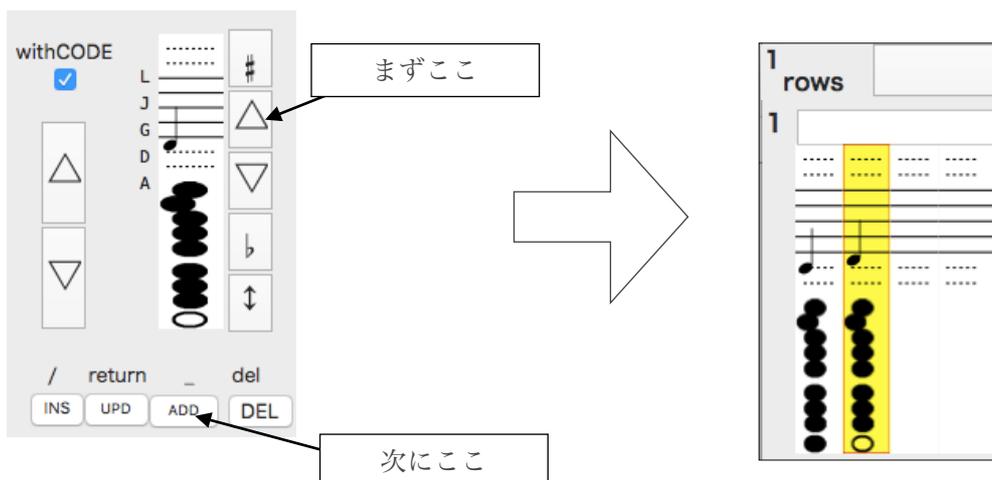


- (3) 「UPD」ボタンで確定すると、楽譜表示エリアに表示されます。



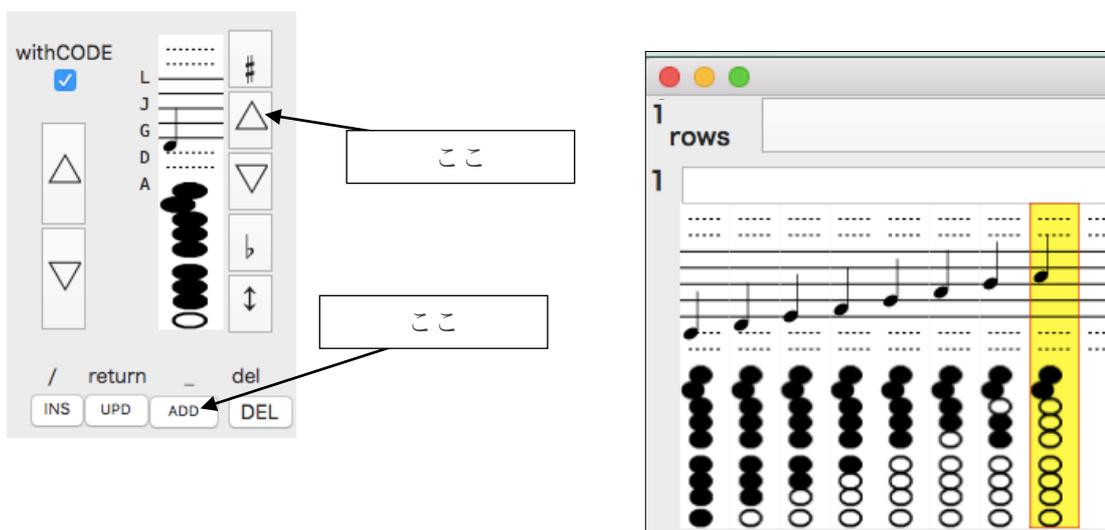
まずは1音、入力完了です。つぎに、「レ」を入力します。

(4) 音程ボタンで1音あげて、「ADD」ボタンをクリック



※「ADD」ボタンは、現在の音符の後ろに追加、「INS」ボタンは、前に追加(挿入)します。「UPD」ボタンは現在の音符を上書きします。

(5) 同じように、音程ボタンで1音あげて、「ADD」ボタンで楽譜表示エリアに追加を繰り返して、「ドレミファソラシド」を完成させます。

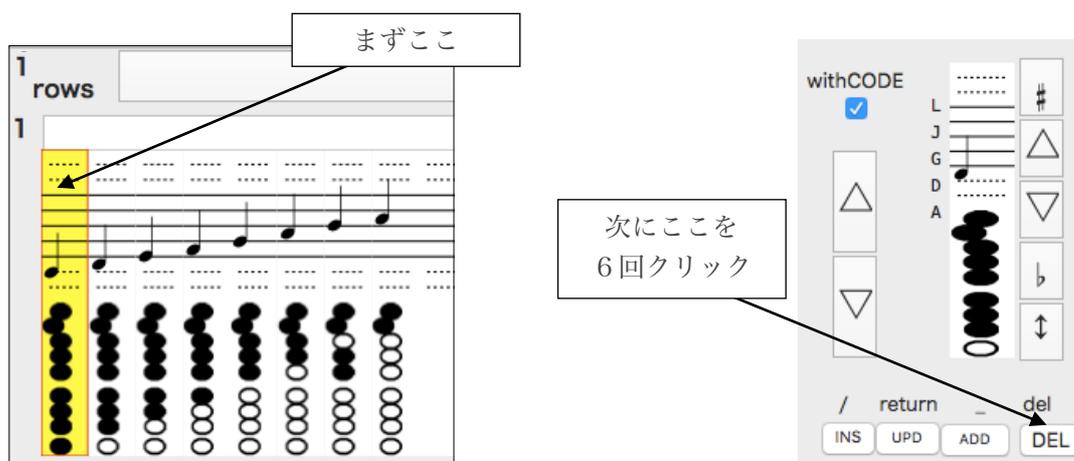


できましたか？結構簡単につくれたでしょう？

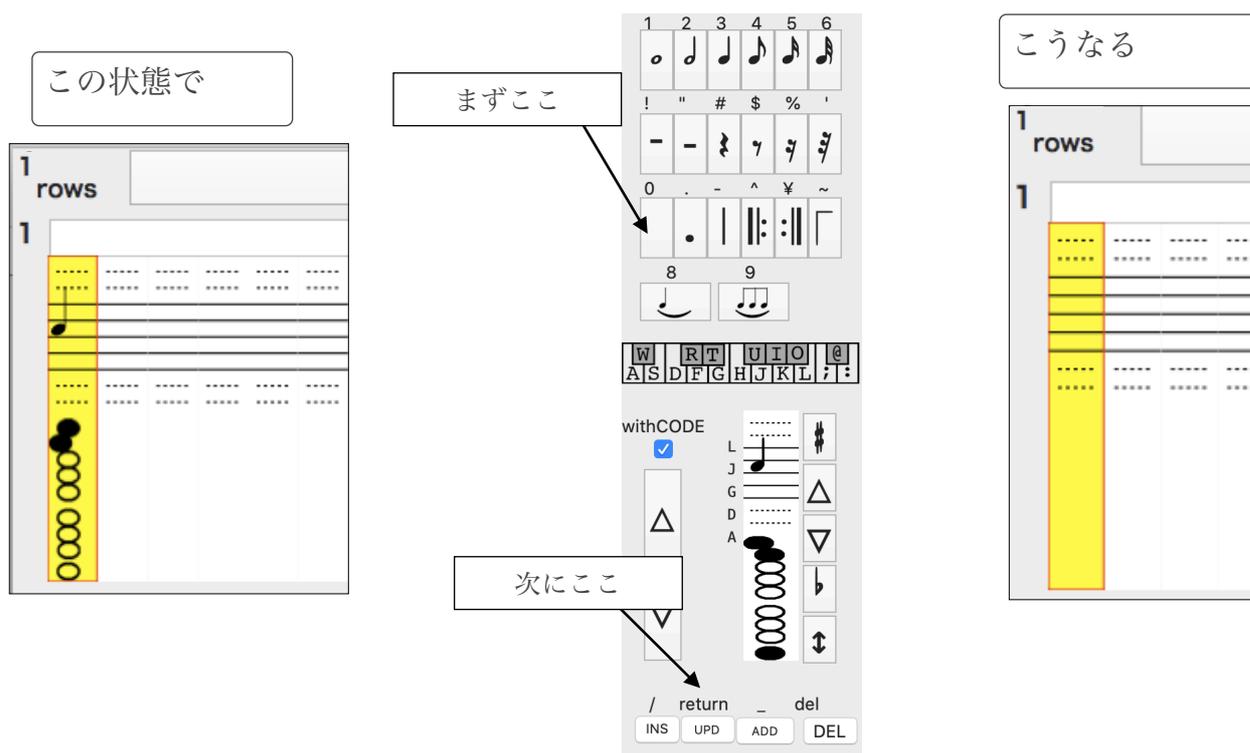
こんどは、おなじ楽譜を、キーボードで入力してみます。

その前に、今入力した音符を消して、楽譜表示エリアを最初の状態に戻しましょう。

(6) 先頭の音符をクリックして、「DEL」ボタンを6回クリック



(7) 最後の一音は消せないなので、空白で上書き（「UPD」ボタン）します。



では、キーボードを使った入力をやってみましょう。

1-2 キーボードで入力する

(1) 「英数」キーを押して、英字入力モードにします。

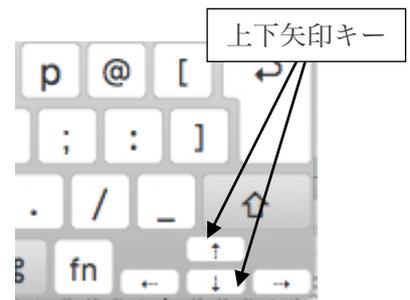
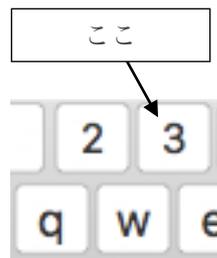


これ

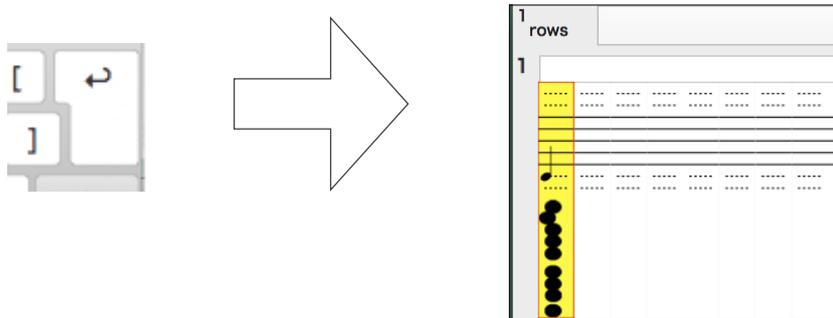
(2) 数字キーの「3」を押すと音符表示欄に四分音符が表示されます。

キーボードの上下矢印キーで音程を変更し、「ド」に合わせます。

※SHIFTキーと同時に押すと半音上下します。

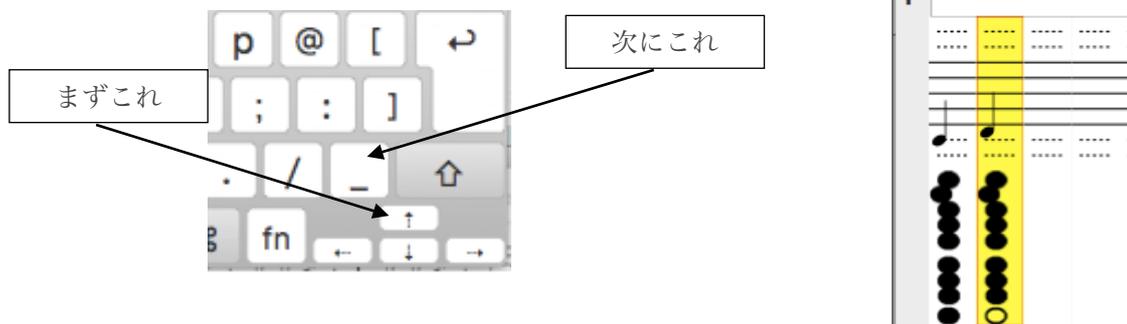


(3) リターンキーを押すと、楽譜表示エリアに表示されます。



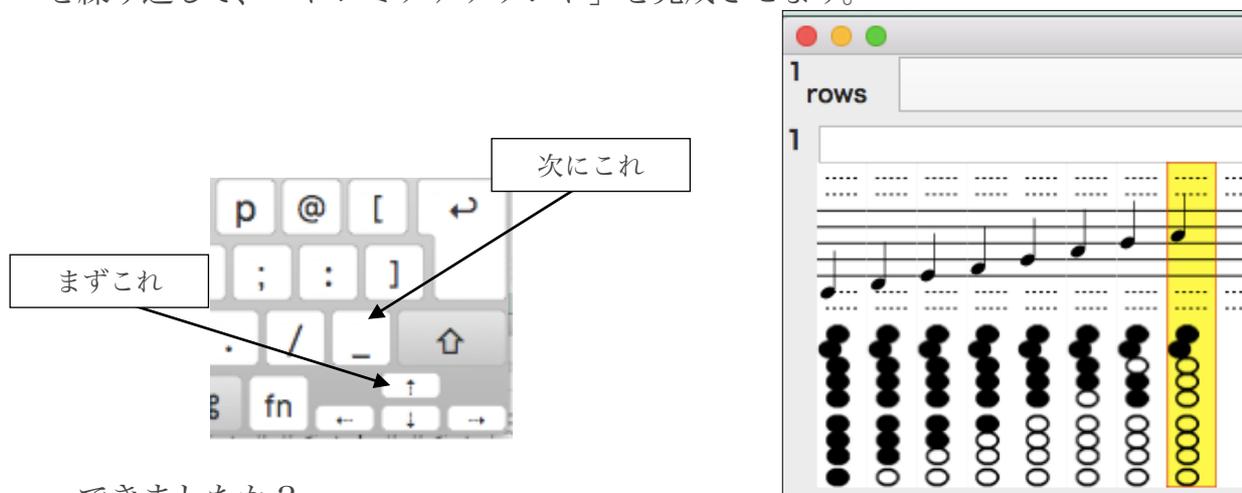
「ド」の入力完了です。つぎに、「レ」を入力します。

(4) 上矢印キーで1音あげて、「_」キーを押します。



※「_」キーは、現在の音符の後ろに追加（ADDボタン）、「/」キーは前に挿入（INSボタン）、「リターン」キーは現在の音符を上書き（UPDボタン）します。

(5) 同じように、上矢印キーで1音あげて、「_」キーで楽譜表示エリアに追加を繰り返して、「ドレミファソラシド」を完成させます。



できましたか？

さらに次は、おなじことを、仮想鍵盤で入力してみます。

その前に、先ほどと同じく、今入力した音符を消して、楽譜表示エリアを最初の状態に戻しましょう。

(6) 「デリート」キーを6回押して、先頭の音符以外を消します。

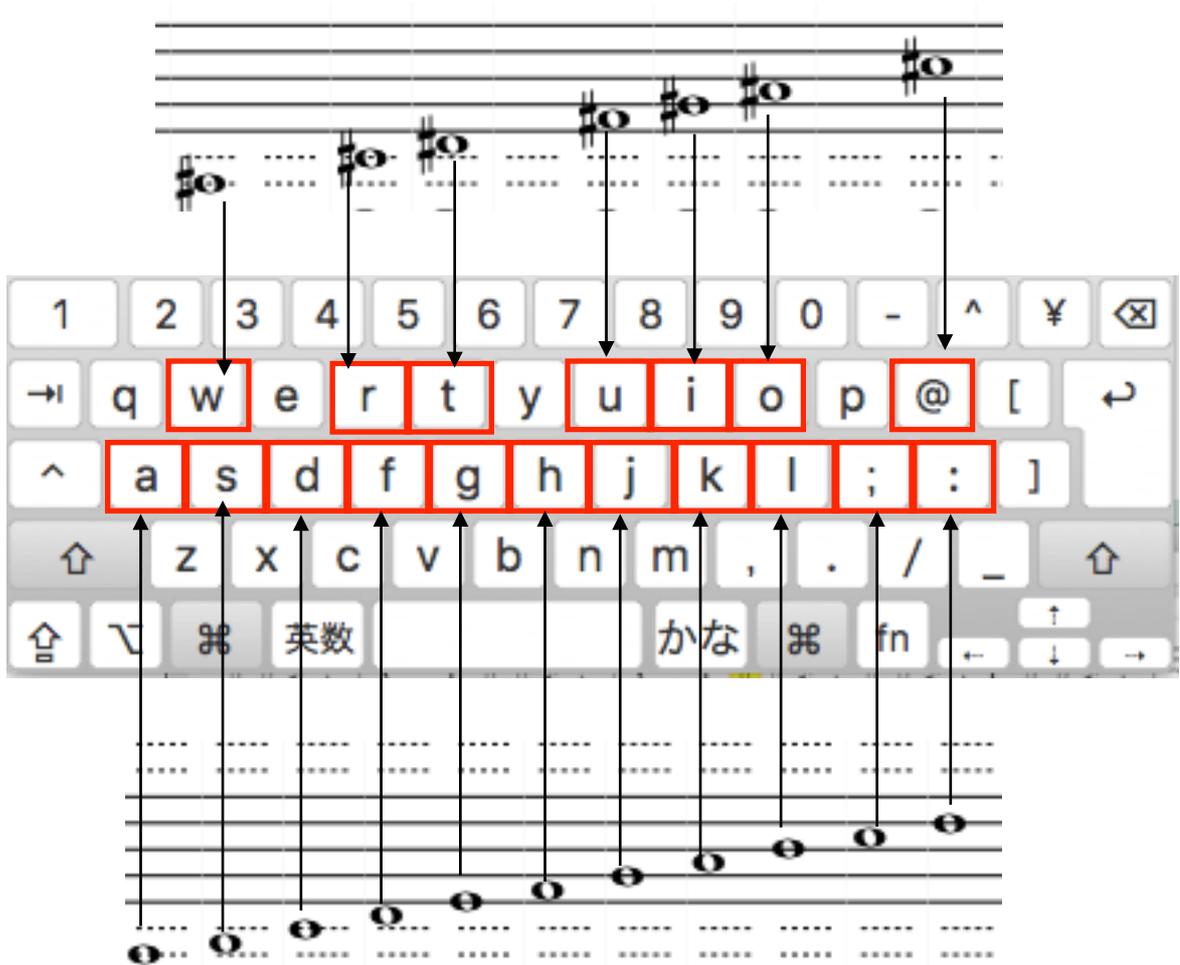
(7) 最後の音符は、空白で上書きします。

「0」キーを押して、「リターン」キーを押しましょう。

では、最後に、仮想鍵盤で入力します。

1-3 仮想鍵盤で入力する。

BambooScoreでは、キーボードの特定のキーを鍵盤に対応させています。



※「シフト」キーと同時に押すと、1オクターブ上の音になります。

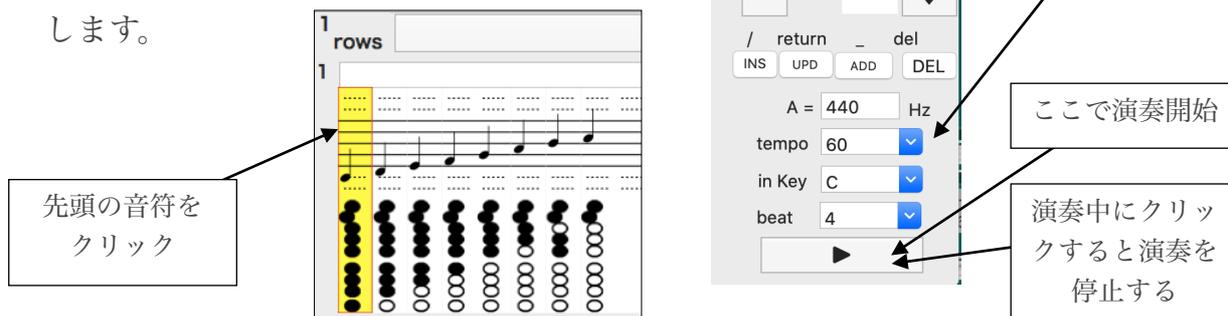
- (1) 「英数」キーを押して、英字入力モードにします。
- (2) 数字キーの「3」を押すと音符表示欄に四分音符が表示されます。
- (3) 「D」キーを押すと、「ド」の音程になります。
- (4) 「リターン」キーで確定します。
- (5) 続けて、「F」キーを押して、「_」キーで音符を追加します。
- (6) 同じように、「G」「H」「J」「K」「L」「;」の順に音符を追加し、完成させます。

2 楽譜の演奏

どうでしたか？ここまでで、音符の入力と削除ができるようになったと思います。
では、今作った楽譜を演奏させてみましょう。

音符表示エリアの先頭の音符を選択して
演奏開始ボタンを押してください。

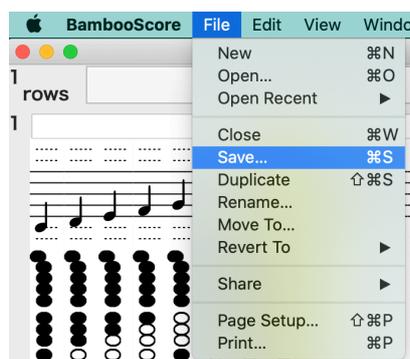
※演奏は、選択している音符からスタート
します。



3 保存・印刷

せっかく楽譜を作ったので、保存しておきましょう。

保存するには、メニューバーから「File」「Save...」を選択するか、「⌘ (コマンドキー)」を押しながら「S」キーを押します。



保存したファイルを開くには、メニューバーから「File」「Open...」を選択するか、「⌘ (コマンドキー)」を押しながら「O」キーを押します。

印刷もできます。印刷は、いつもの通り、メニューバーから「File」「Print...」を選択するか、「⌘ (コマンドキー)」を押しながら「P」キーを押します。

4 もうちょっと入力の話

今度は、ちゃんとした曲を入力してみます。

スワニー河の一節です。

この譜面を入力しながら、もうちょっと入力方法の説明をします。

とりあえず、一小節目の入力は大丈夫と思います。

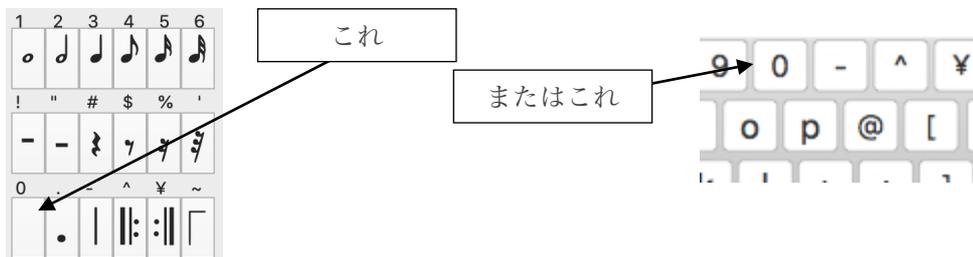
音符を選んで、入力して行ってください。



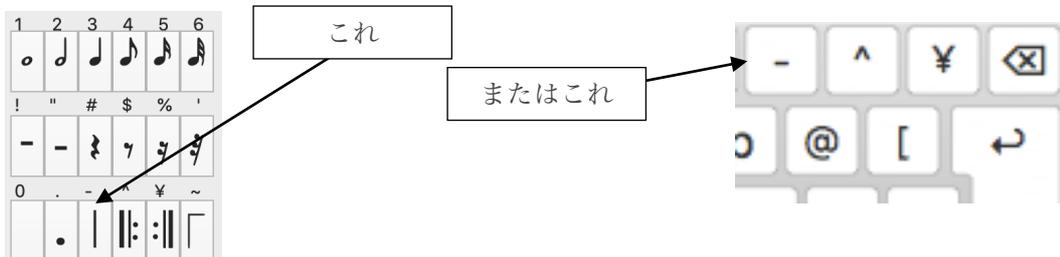
4-1 いろいろな音符の入力

2分音符の次にある空白は、楽譜を見やすくするために入れています。

空白を入れる場合は、音符を入力するときと同じように、空白のボタンをクリックするか、キーボードの「0」キーを押して入力します。

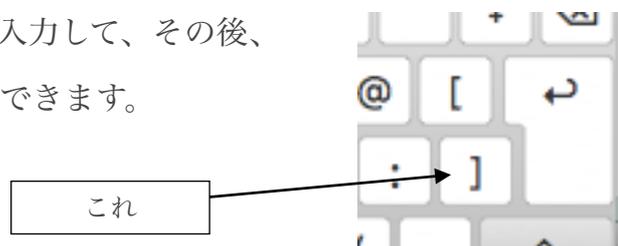


小節の区切り線は、区切線のボタンをクリックするか、または、キーボードの「-」キーを押して入力してください。

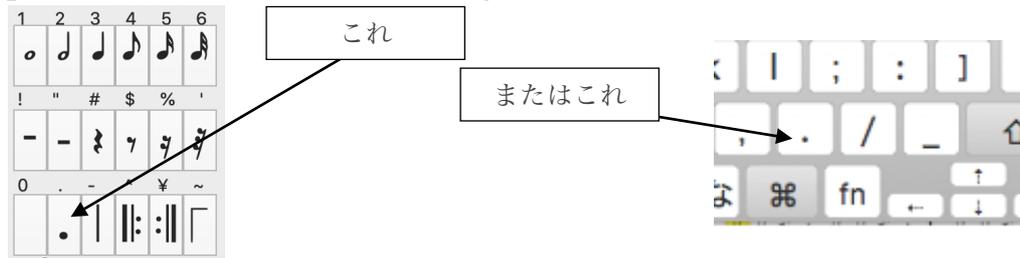


2小節目に行きます。

下向きの音符は、まず、普通に音符を入力して、その後、キーボードの「]」キーを押すと、入力できます。



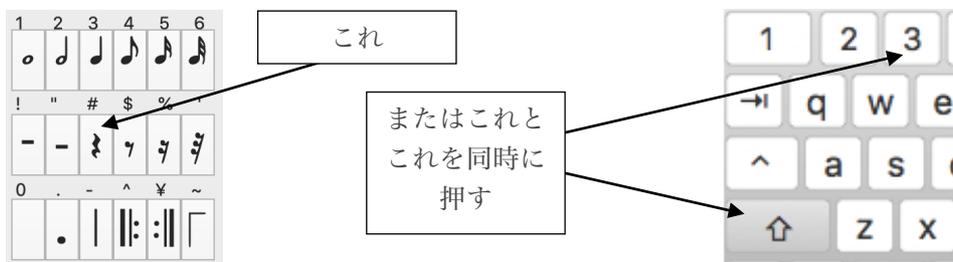
音符に付点をつけるときは、付点のボタンをクリックするか、または、キーボードの「.」キーを押して入力してください。



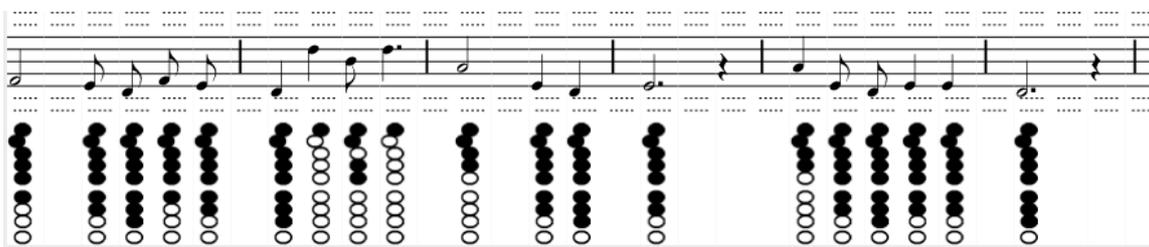
3小節目は大丈夫でしょう。

4小節目です。

4分休符は、音符を入力するときと同じように、4分休符のボタンをクリックするか、キーボードの「Shift」キーを押しながら「3」キーを押して入力します。



6小節目まで入力できたでしょうか。



では、先頭の音符を選択して演奏開始ボタンを押してください。

4-2 反復記号

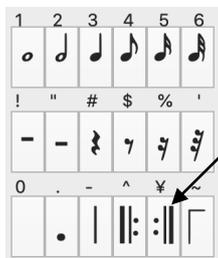
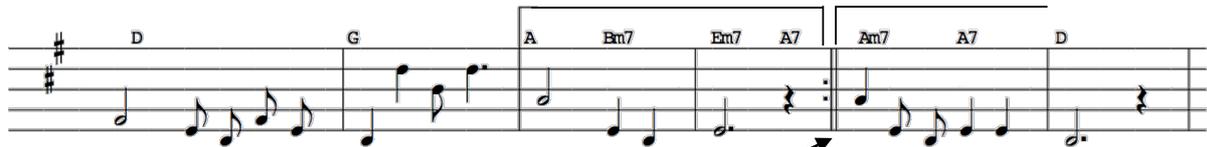
いかがですか。思ったような演奏はできなかったですよね。

それは、反復記号 (||:と:||) が正しく入力されていないので、ちゃんとした曲になっていないのです。

では、反復記号を入力しましょう。



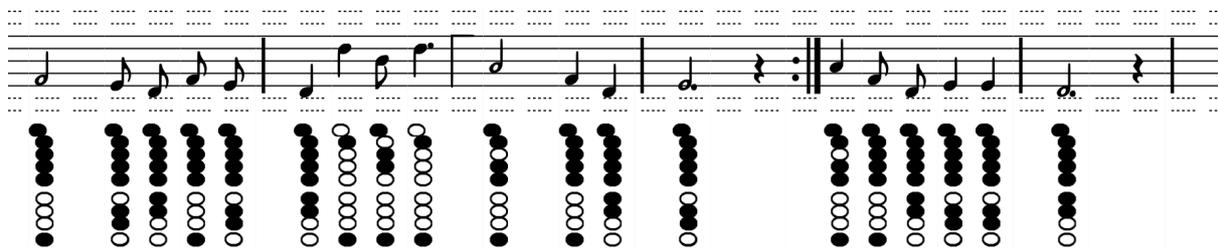
ここ (「」) はこのボタン
または「SHIFT」と「^」キー



ここ (:||) はこのボタン
または「¥」キー



入力した結果、こんな画面になります。



楽譜とはちょっと違いますが、ためしに演奏させてみてください。

今度は、ちゃんとした曲らしいものを演奏したと思います。

でも、「スワニー河」の曲調とは、ちょっと違ってきますね。

楽譜の先頭をよく見ると#が二つ付いています。

このために、曲調が変わってしまっていたのです。

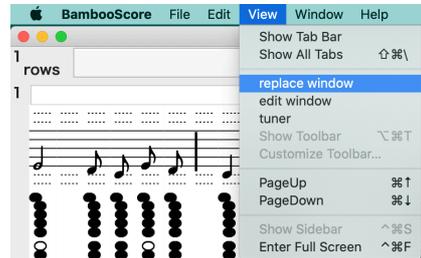


4-3 音符の置換

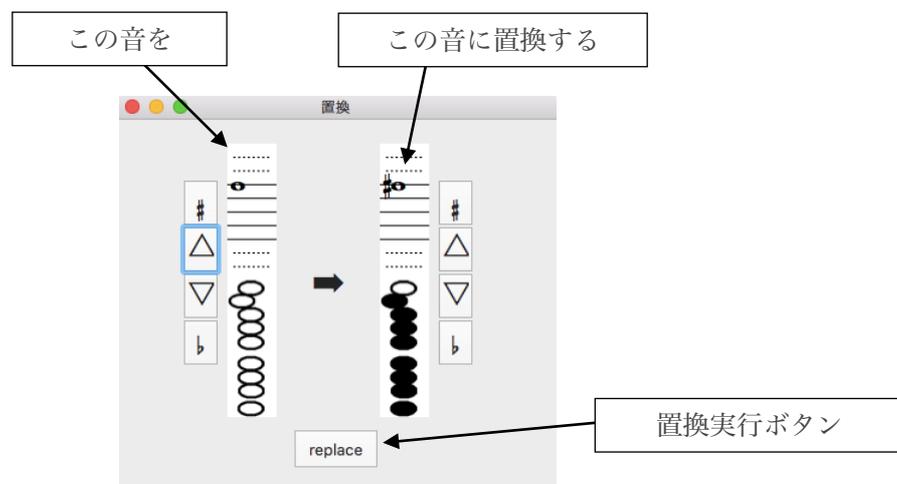
Bamboo Scoreでは、楽譜の先頭の#をつけることができません。代わりに、対象となるすべての音符に#をつけます。

そのために、音符の置換機能を用意しました。

Viewメニューから「replace window」を選択します。



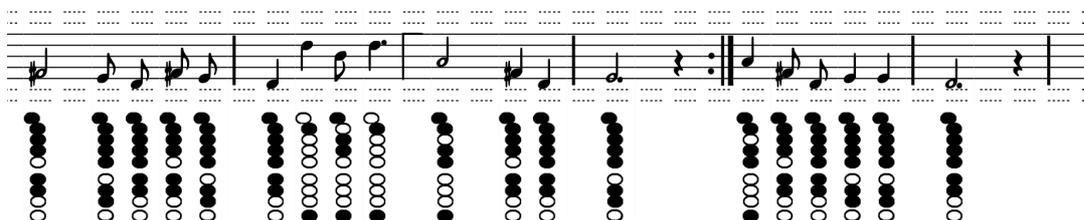
下図のようなウインドウが表示されます。左側の音を右側の音に置換します。



「スワニー河」では、「ド」と「ファ」に#がついているので、二回置換します。

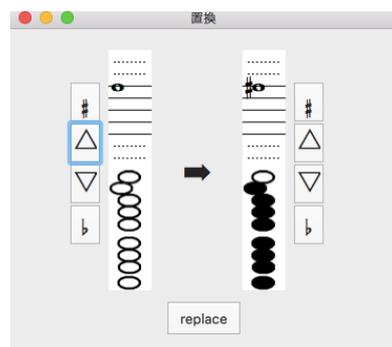
まず、左側の△ボタンを何回か押して、音符を「ファ」の音に合わせます。

次に、右側の△ボタンを押して音符を「ファ」に合わせた後、#ボタンを押します。これで、「ファ」を「ファ#」に置換することになります。「replace」ボタンを押してください。全ての「ファ」が「ファ#」に置換されました。



同じように、「ド」を「ド#」に変換してください。

残念ながら、この楽譜には「ド」の音がなかったので、なにも変わりませんでした。



4-4 コードの入力

では、コードを入力します。

「英数」キーを押して、英字入力モードにしたあと、マウスでコード入力欄を選択して、コードを入力します。コードとコードの間はスペースで埋めてください。

「C#m7」などの「#」は、「SHIFT」＋「3」で入力

「C♭m7」などの「♭」は、半角小文字のB、つまり「b」で入力します。

※コード入力欄に入力した内容は、音符の表示や再生時の音にはなにも影響がないので、たとえば、コードの代わりに歌詞などを入力してもよいです。

コード入力欄

4-5 キーの変更

ここで、もう一度、元の楽譜を見てみましょう。

楽譜の左上に、「in B♭」と書いてあります。

ということは、楽譜上の「C」（ド）は、実際の音は「B♭」（シ♭）になります。

	—		—
	—		—
	—		—
楽譜上の表記		=	実際の音
	●		●
			♭

ですから、楽譜の表記を1音下げれば、楽譜の表記と実際の音が一致します。

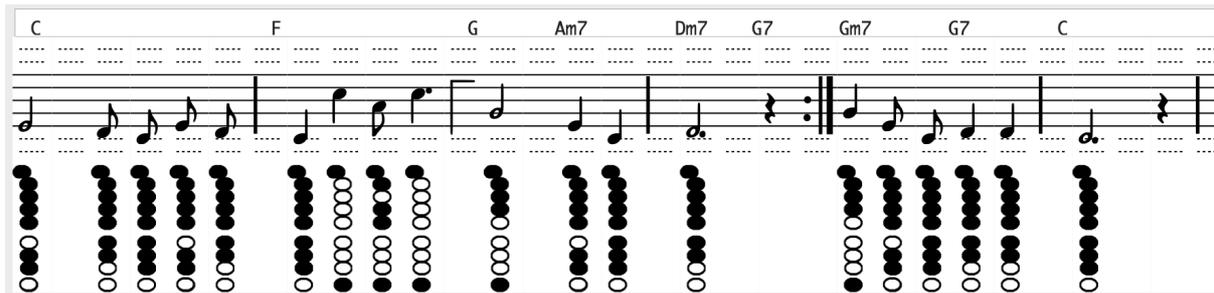
どうするかというと、音符入力エリアの、左側の

△または▽ボタンで、楽譜エリアの音符を一括して上下します。

これ

では、▽ボタンを2回クリックしてください。

先ほど入力したコードも一緒に変更されているはずです。



お疲れ様でした。これで、スワニー河の最初の部分が完成しました。

せっかく作ったので、まず「⌘」+「S」で保存しましょう。

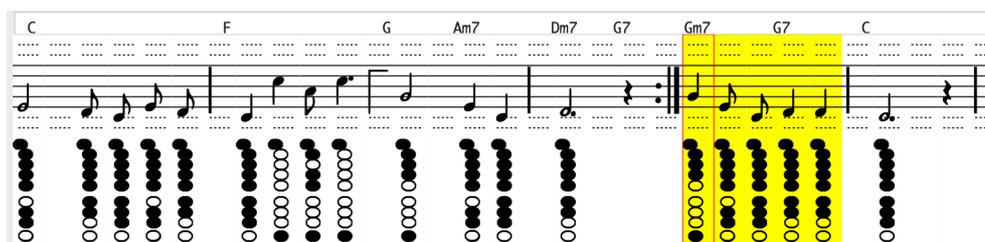
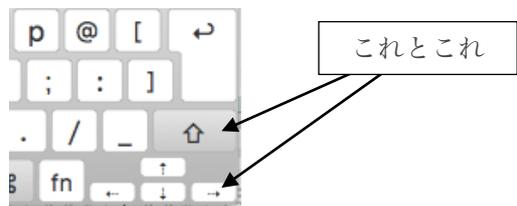
次に「⌘」+「P」で印刷してみてください。演奏させてみてください。

そして、今まで覚えたボタンを使って、音を上下させたり、音符の向きを変えたりして、bamboo Scoreに慣れてください。

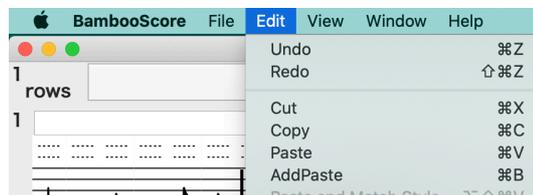
ここでもう一つ、入力で欠かせないコピーアンドペーストの説明をしますので、先ほど作った楽譜で試してみてください。

4-6 コピーアンドペースト

コピーする最初の音符をクリックして、「SHIFT」キー+右矢印キーで選択範囲を広げます。



Editメニューから「Copy」を選ぶか、「⌘」+「C」でコピーします。

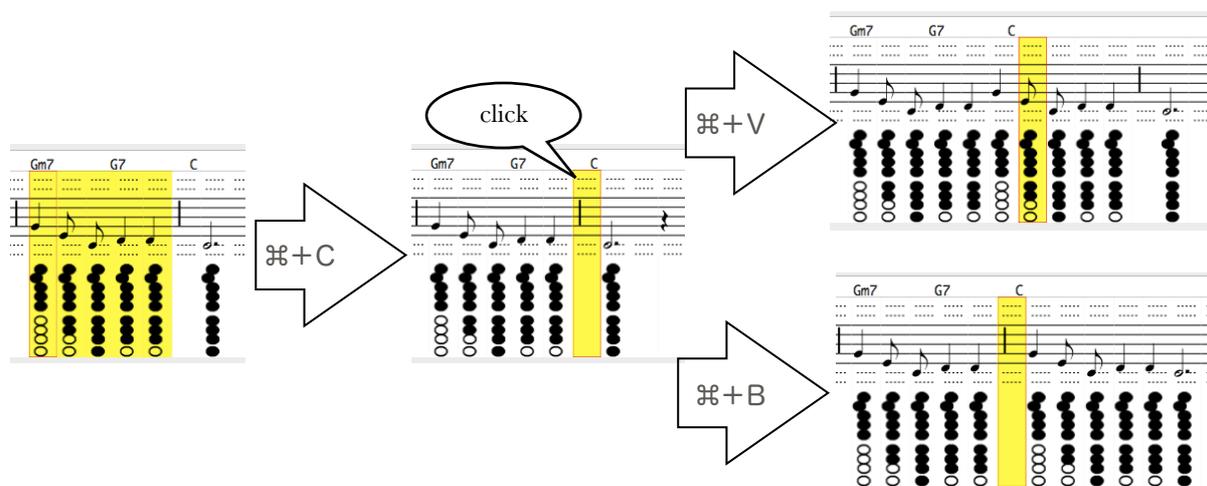


貼り付け先をクリックして、Editメニューから「Paste」を選ぶか、「⌘」+「V」でペーストします。

「⌘」+「Z」で取り消しができます。

「Edit」メニューの中に「AddPaste」という、見慣れないメニューがあります。

試してみましょう。わかりやすいように、小節の区切りを貼り付け先にして、PasteとAddPasteを試してみてください。



Paste (⌘+C) は小節区切りの前に挿入、AddPaste (⌘+B) は後に追加します。

4-7 三連符 タイ記号

さて、三連符とタイ記号の入力です。

三連符は、本当は入力画面でも印刷した時も、こんなふう  に表現したかったのですが、残念ながら実現できませんでした。

代わりに、入力はこう  で、印刷ではこんな  感じにしてみました。

三連符は、四分音符・休符  8分音符・休符  16分音符・休符  で使えます。

タイ記号は、入力はこう  で、印刷ではこんな  感じです。

では、入力の方法です。

次のような楽譜を作ります。Night and Day の出だしの部分です。



まず、これまで同様に音符を入力します。

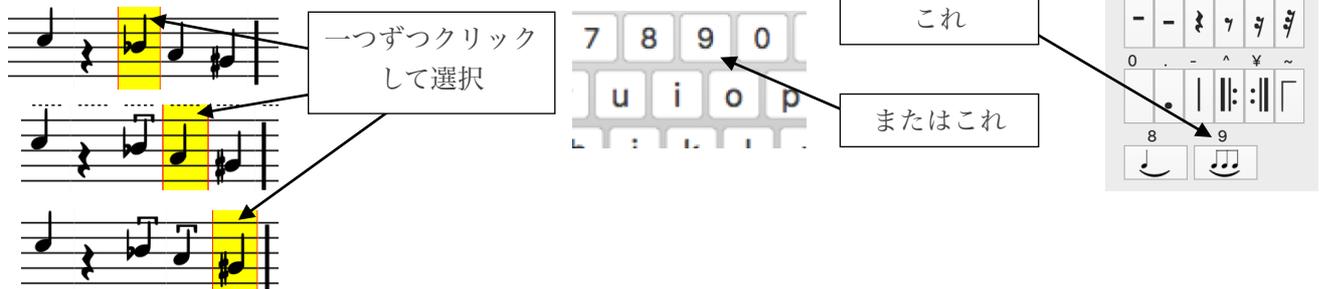


2小節目の全音符をクリックして選択し、タイ記号のボタンをクリックするか、または、キーボードの「8」キーを押してタイ記号を入力してください。



次に、三連符にする四分音符を一つずつ、クリックして選択し、三連符のボタンをクリックするかキーボードの「9」キーを押して三連符記号を入力

してください。



ここまで入力したら、再生してみてください。ちゃんとタイ記号と三連符で再生しているはずです。次に、印刷して、出来上がりを確認してください。

印刷の時は、三つの音符または休符が続けて三連符になっていない、こういう入力の際には、正しく表示されないので注意してください。

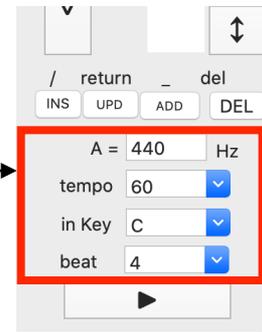


三連符記号、タイ記号を外す時には、それぞれのボタンをもう一度クリックするか、キーボードの「8」「9」キーをもう一度押すかすると外れます。

5 いろいろな演奏の仕方

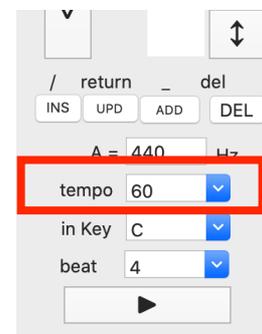
楽譜を演奏するときに、「もうちょっとこんな感じで演奏してほしい」ということもあると思います。

そんなときには
このへん
を設定してください。



5-1 テンポの設定

演奏のスピードを変えます。

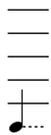


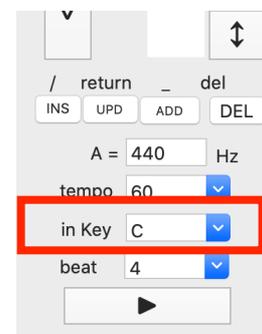
5-2 インキーの設定

4-5 「キーの変更」では、楽譜全体を移調しましたが、管楽器でB♭管、E♭管を演奏する人は、楽譜はそのままにして演奏する音を自分の楽器に合わせたいことがあると思います。

(私がB♭管を使っているからそう思うのですが)

その時は、in KeyをB♭やE♭に設定してください。

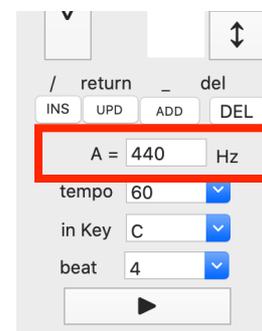
in Key = B♭では、楽譜の  を演奏すると、 の音 (B♭) を出します。



5-3 基準周波数の設定

BambooSaxは手作りのため、個体ごとに個性があります。

「俺の持っているのは全体的にちょっとだけ音が低いんだよ」ということもあるでしょう。



そんな時は、A=436とか432とかに変えてみてください。

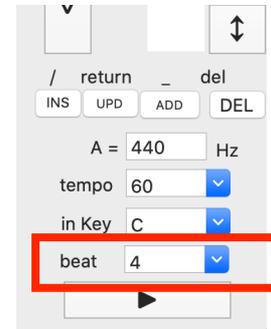
微妙に音程が変わっているはずですよ。（通常はA=440Hzです。）

5-4 カウントの設定

楽譜を演奏する時は、メロディーの最初にカウント音が入ります。

カウントの数は、4回か3回を選ぶことができます。

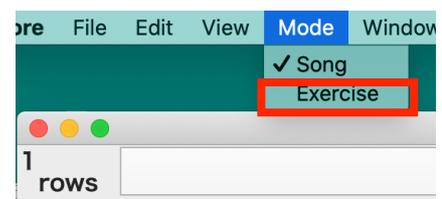
beatの設定を変更してください。



5-5 エクササイズモード

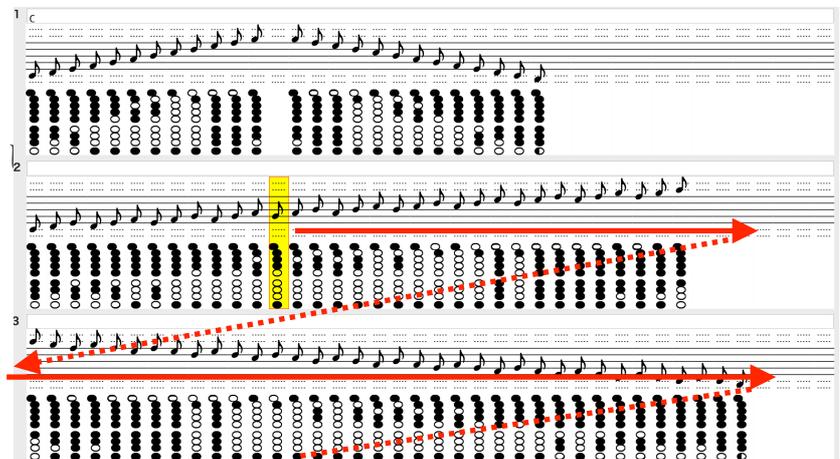
同じフレーズをひたすら繰り返す練習の時は、エクササイズモードを選んでください。

エクササイズモードの時は、選択された一つの行をひたすら繰り返し演奏します。



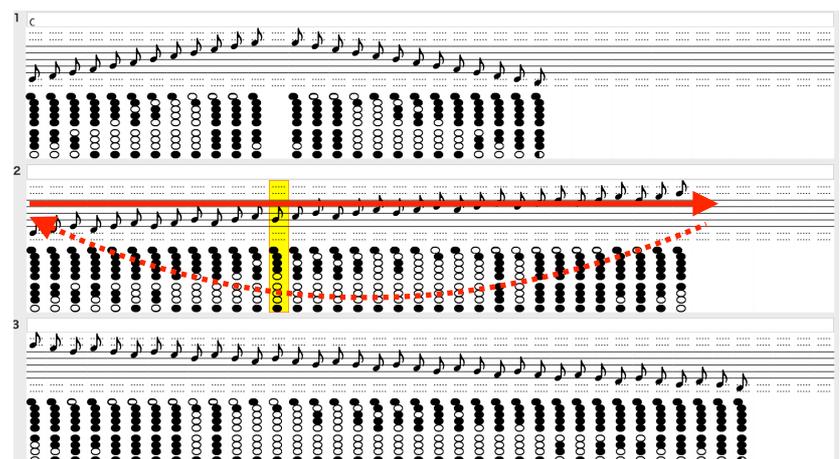
◎Songモード（通常）

選択した音符からスタートして楽譜の最後まで演奏する



◎Exerciseモード

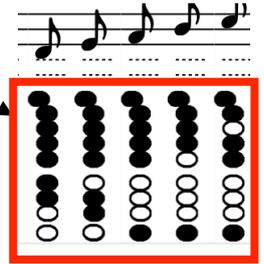
選択した行の最初からスタートして、その行を繰り返し演奏する



6 おまけの情報

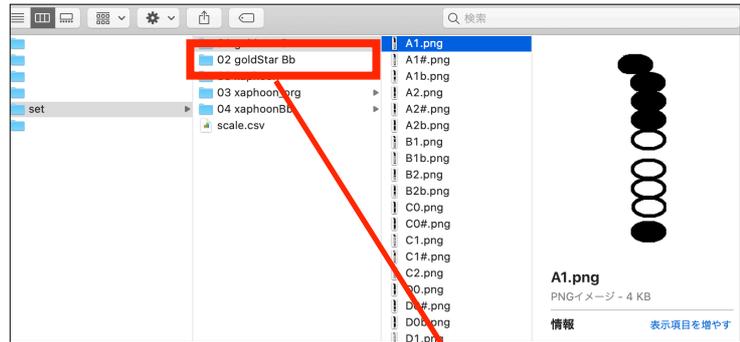
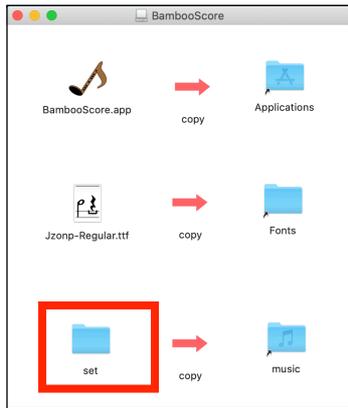
楽譜に表示している運指表は、
自分独自の運指表に変更したり、バンブーサククス
以外の運指表を表示することができます。

運指表

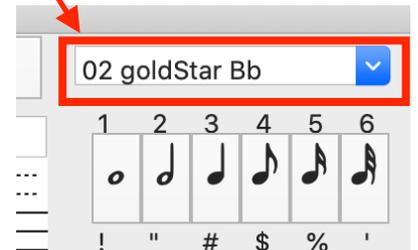


運指の画像は、BambooScoreをインストールするときに

「~/music」にコピーした「set」フォルダの中にあります。



「set」フォルダの中は、楽器ごとのフォルダに分かれていて、
その個々のフォルダの中に各音階の運指図がpngファイルと
して（C0.png、C0#.png....）保存されています。



このpngファイルは、ペイントソフトで書き換えることができるので、自分好みの
運指がある時は、書き換えてください。

また、他の楽器の運指図ファイル（C0.png、C0#.png....）を作った時は、「set」
フォルダの中に新しいフォルダを作って、その中に保存してください。

次回BambooScoreを起動したときには、「set」フォルダの中のフォルダ名が、楽
器選択の一覧に表示されるようになっています。

「set」フォルダの内容を書き換えたり追加したりすることで、自分好みの運指に
したり、他の楽器の運指図にしたりすることができます。